

湖南省農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

湖南省では全耕地面積の90%以上を水田が占め、水稻栽培中心の地域となっている。野洲川沿岸のほ場整備が進んでいる地域においては、集落営農組織等を中心に麦・大豆の二毛作をブロックローテーションで行うなど水田の高度利用に取り組んでいる。しかし、野洲川以南地域や下田地域では、ほ場環境等による麦・大豆の生産性、品質面で課題がある。今後、飼料用米等の非主食用米の作付を推進し、水田の有効活用にむけて地域全体での取り組みが必要となってきた。

また、都市化が進展する中で兼業農家が大半を占めており、年々高齢化により農業離れが進み、荒廃農地の増加が課題である。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

生産者が需要動向を勘案し、自ら需要に応じた米の生産・販売を行えるよう啓発、推進を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要量が年々減少している中で、需要に応じた米の生産・販売を図るため、作付面積を維持・拡大する。また、麦・大豆の栽培が定着していない地域において作付を推進し、水田のフル活用を目指す。

イ 米粉用米

実需者との契約に基づく計画的な生産を推進する。

ウ 新市場開拓用米

実需者との契約に基づく計画的な生産を推進する。

エ WCS用稲

実需者との契約に基づく計画的な生産を推進する。

オ 加工用米

複数年契約等による実需者との連携による計画的な作付けを推進するが、需要量には限度があるため、集荷業者等との調整に努める。

カ 備蓄米

需要に即した作付推進を行い、生産数量を確保する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

直接支払交付金を活用し、可能な地域において作付け拡大し、ブロックローテーションによる団地化や担い手への農地集積を図り、作付面積の拡大を促進する。また適期播種の励行と適正な肥培管理や排水対策及び集落ぐるみによる防除の徹底に取り組み生産収量の確保、品質の均一化をめざす。

(4) そば、なたね

需要に即した作付推進を行い、生産数量を確保する。

(5) 高収益作物（野菜等）

経営の複合化による農家所得の向上や地産地消を推進するため、品目ごとの需要等に応じた取組について、産地交付金を活用し推進する。

(6) 畑地化の推進

野菜などの高収益性作物の作付を進め、農家所得の向上を図るため、畑地化を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	366.5	355.0	352.5
飼料用米	12.7	13.0	13.5
米粉用米	0.0	0.0	0.1
新市場開拓米	0.0	0.0	0.0
WCS 用稲	0.0	0.0	0.0
加工用米	1.3	1.4	1.5
備蓄米	0.0	0.0	0.0
麦	81.3	82.0	83.0
大豆	79.7	82.0	83.0
飼料作物	0.0	0.0	0.0
そば	0.0	0.0	0.1
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物	13.1	14.7	18.0
野菜（伝統野菜以外）	5.5	6.5	8.5
下田なす・弥平 とうがらし・さ といも・生姜・ ごぼう（伝統野 菜）	1.0	1.3	1.5
果樹	1.1	1.2	1.5
花卉・花木	0.2	0.0	0.5
地力増進	5.0	5.0	5.0
景観形成	0.3	0.7	0.7

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	現状値	目標値
1	下田なす 弥平とうがらし さといも 生姜 ごぼう	伝統野菜助成	対象作物の作付面 積の拡大	(29年度) 100a	(32年度) 150a
2	別表に定める野菜	重点作物助成	対象作物の作付面 積の拡大	(29年度) 550a	(32年度) 850a
3	別表に定める野菜	野菜二毛作助成	二毛作での作付面 積の拡大	(29年度) 220a	(32年度) 300a

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。